

# 協力会だより

第36号

発行 山梨県立考古博物館協会 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 電話(055)266-3881(考古博物館内)  
平成23年4月24日発行 考古博物館協会blog <http://www.y-kyouryokukai.jp/>

## 平成22年度の協力会活動を振り返る

—平成22年度の協力会は協力員68名、様々な場面で活躍をしていただきました—



### 活動・ご協力

平成22年度協力会総会、ボランティアガイド証交付式(4/17)  
ミュージアムショップ(4~3月)  
ボランティアガイド(展示解説)(4~3月)  
ミュージアムショップ運営委員(4~3月)  
第22回風土記の丘こどもまつり(5/2・3)  
学校勾玉作り体験・夏休みフリーパスポートイベント・  
秋のふれあい祭り勾玉作り体験補助(6~8・10月)  
特別展準備・常設展復旧作業(10/1・2、12/2)  
特別展(10/9~11/28)  
古代のもちつき(1/2・3)  
考古博冬まつり(2/26)

### 協力員対象研修

ボランティアガイド研修(前期・後期・実習)  
(6/25・26、9/18、12/18)  
春季企画展勉強会(5/15・16・19)  
県外研修1《1泊2日》(8/28・29)  
夏季企画展勉強会(7/30・31、8/8)  
特別展勉強会(10/15・16・17)  
冬季企画展勉強会(12/16・19・23)  
県外研修2《日帰り》(3/6)

## 平成22年度山梨県立考古博物館協力会総会・ボランティアガイド証交付式

平成22年4月17日(土)、考古博物館多目的室にて平成22年度考古博物館協力会総会を41名の協力員参加のもと開催いたしました。新年度にあたり、協力会活動への意欲を高めた総会でありました。また、総会の記念講演を山梨県立博物館、平山優氏に「武田氏研究の最前線～新発見の山本菅助関係文書を読み解く～」という演題でご講演いただきました。今まさに解かれた歴史の研究成果を聞くことができました。



ボランティアガイド証授与

あわせてボランティアガイド証交付式が行われました。平成20・21年度ボランティアガイド研修を受講し、十分なガイド実績をあげられる協力員8名に考古博物館榊原館長よりボランティアガイドマスター証およびボランティアガイド証が交付されました。

☆ボランティアガイド証交付者(敬称は省略させていただきます)

ボランティアガイドマスター証

ボランティアガイド証

野口正樹、広瀬はるみ

今福政江、真田義夫、杉野美幸、芹沢昇、藤原貴憲、藤森たか子

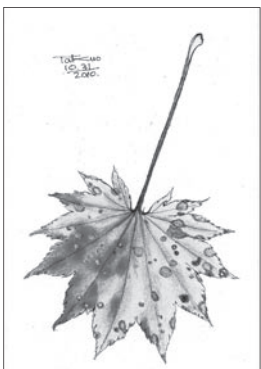
## 協力員による常設展解説(ボランティアガイド)本格始動

平成21年度に始まった協力員による常設展示を中心に解説をする、ボランティアガイド。平成22年度はボランティアガイドマスター・ガイド証を受けた方が交替で土日や来館者の多い日に活動をしています。また7月には、「ボランティアガイドベスト」を作り、来館者の方へのボランティアガイドの目印としています。



ガイドさんの活動が活発になるにつれて来館者からお礼の便りなど嬉しい声が届いています。

ベストは、展示室内にマッチするよう、色は「ホワイト」、「ボランティアガイド」のワイン色のロゴ入り。



— お便り紹介 —

平成22年11月のある日、1枚のはがきが考古博物館に届きました。

差出人は長野県のご夫婦。11月3日に考古博物館を訪れた際、ボランティアガイドさんに解説をしてもらったことに対するお礼のはがきでした。「解説文を読んだだけと違って、古代の人々の息づかいまで遺物から感じとれたように思います」というコメントが書かれていました。心のこもったお便りでした。

ハガキをくださった方が描いた紅葉した木の葉

### ボランティアガイド 芹沢 昇

ボランティアガイドとして活動を始めて1年が経ちました。ボランティアガイドとしてお客さんと接するようになり、常に気を付けていることは「お客さんの邪魔をしない」ことです。お客さんのペースで見学してもらい、お客さんが欲しい情報を提供することを心がけています。また自分より詳しい方から色々な情報を教えてもらったりすることもあります。さらにより専門的なことは学芸員の先生に来てもらい、自分の思い込みや自分の考えを前面に出さないようにしています。ボランティアガイドはあくまでもお客さんへの情報提供に努めることが一番の役目だと思っています。そして自分自身が博物館の展示を楽しんでいることです。その楽しみをお客さんと共有できることがボランティアガイドとして活動する原動力であり、至福の時間です。

## ボランティアガイド 野口 正樹

「説明なしで見るともとてもよく理解できた」「勉強になった」「楽しかった！」

常設展ガイドを始めて約1年半、多くのお客様を御案内しましたが、終了時にそんな感想を頂戴することが多々あります。ご丁寧な礼状を頂くことも。ガイドとしての充実感と満足感、手応えを感じる瞬間です。反省することももちろんあります。

自分自身の世界も飛躍的に広がった、と実感しています。

でも、それに満足してはいけな、更にスキルアップしなくては、とも思います。

すなわち、さらに奥深い知識を、より巧みな話術で、お客様のニーズにあわせてお話しする、一言でいえばより高品質なガイドをお客様に提供しよう、そんな気持ちを常にもっています。これは、お客様のためであり自分自身の成長のためでもあります。

学芸課の皆様の多大な指導と援助をいただき、ガイドとしての第一歩を踏み出した時の緊張感と向上心をいつまでも忘れずに持ち続けよう、今年は脱兎の勢いでガイド活動に邁進しよう、そんな決意を新たにしています。

そのせいか、今年の初夢は

一.土器 二.古墳 三.宇宙 でした。(ウソです)

どのガイドさんもボランティアガイドをすることに幸福感を感じているようです。これからのご活躍も楽しみです。

## 平成22年度 県外研修 part1

### まきむく はしはか 卑弥呼の遺跡、纏向遺跡と箸墓古墳見学

1泊2日の県外研修を、平成22年8月28・29日(土・日)に協力員26名、事務局2名の総勢28名が参加して、奈良県桜井市と橿原市で実施しました。大型建物跡が発掘され卑弥呼の館ではないかと新聞報道された纏向遺跡と、卑弥呼の墓とも言われている箸墓古墳などを散策しました。28日の朝7時45分に考古博をバスで出発。名神高速の多賀SAで昼食。大阪をまわり、伝心神陵などの古市古墳群を通り抜け、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に到着。5千点もの展示品もさることながらボランティアガイドも充実していました。夜は酒宴の後、大和橿原シティホテルに宿泊。周囲には古い町並みや藤原京跡などがあり、朝早く散歩された方も多かったようです。

29日は朝8時に出発、箸墓古墳から3kmほどの行程を、2時間かけて田園風景のなかを歩きました。途中、道を間違ひ、暑い中を余計に歩くハプニング。纏向遺跡では発掘が継続中で、柱穴も見学できました。石塚古墳などを見学の後、5分ほどで桜井市立埋蔵文化財センターに到着。所員の案内で纏向遺跡の発掘品などを見学しました。お昼は、三輪神社の鳥居前、そうめん処森正さんで名物の三輪素麺と柿の葉寿司をいただきました。三輪神社をお参りし、三重県経由で夕方6時30分頃に考古博物館に到着しました。



奈良県立橿原考古学研究所附属博物館にて 研修参加者



纏向遺跡発掘現場見学(撮影 協力員 高野 和正)

#### 研修地

28日(1日目) 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

29日(2日目) 箸墓古墳、国津神社、ホケノ山古墳、巻野内石塚古墳、纏向遺跡、纏向石塚古墳、纏向勝山古墳→桜井市立埋蔵文化財センター

県外研修記 ～研修に参加して、知ったこと 感じたこと 考えたこと～

協力員 飯田 敬

協力員となり初めての宿泊研修に参加できまして良かったと思います。新聞などマスコミで話題になった邪馬台国があったとされる遺跡を巡る旅でした。往路、長時間の車中でも保坂課長の熱意ある車窓に走る古墳などの説明を受け、退屈もせずに橿原考古学研究所附属博物館に到着しました。館内の展示品の多さ充実ぶりに圧倒されましたが、特に藤ノ木古墳の遺物の鮮やかさは印象的でした。食事処での一日の締めくくりはほろ酔い気分もあり、夕食を堪能しました。

翌日は猛暑の中、箸墓、ホケノ山古墳など山の辺の道を歩き纏向遺跡の発掘現場では先人たちの偉業に感動し、当時、日本の中心であったこの地を駆け回っていた武士の姿が脳裏に浮かびました。桜井市立埋蔵文化財センターでは学芸員の説明に当時の人々の暮らしぶりが改めて理解できました。名物の三輪素麺、柿の葉寿司に舌鼓を打ち、帰路につきましたが二日間の研修では時間が足りなかったと感じたのは私だけだったでしょうか。終わりに旅行を企画され実行に移された皆様に感謝致します。

協力員 乙黒 孝江

初期ヤマト政権発祥の地を歩こう～というパンフレットを手に猛暑の中、散策がスタート。

まず女王卑弥呼の墓と言われる全長約280mの箸墓古墳へ。ホケノ山古墳のあとは卑弥呼政権の中核の建物群があったと考えられている辻地区にある纏向石塚古墳、勝山古墳の見学。遠く3世紀初期の卑弥呼の時代に思いを馳せるはずだったのに～ただ暑くて…。

9月初め、この建物群跡から祭祀に使われたとみられる桃の種が2000個余り見つかった…という報道がありましたよね。

あをによし・・・纏向に見る甲斐銚子塚古墳の役割についての私見 協力員 芹沢 昇



邪馬台国の中心が九州にあったのか、畿内にあったのかはわからないが、卑弥呼の墓と考えられているのは奈良の箸墓古墳である。その周辺には、弥生時代の終わり頃に造られた墓がたくさん見つかっていて、これらを墳丘墓と呼んでいる。この墳丘墓は後の前方後円墳のような形をしているが、前方部が後円部より短いという特徴をもっているため纏向型前方後円墳と呼んでいる。そして3世紀の終わりがさき箸墓古墳が造られ、これが最初の古墳といわれている。それ以後、畿内を中心に多くの巨大な古墳が造られ、その規模はだんだん大きくなり、大仙陵古墳(仁徳天皇陵)でその頂点を極めた。

山梨にも4世紀中ごろに甲斐銚子塚古墳という大きな前方後円墳が造られるが、これは大和朝廷から有力な国司が派遣され、東国や北陸を抑える要衝の地を統治していた人物の墓と考えられる。また甲府盆地の北部には弥生時代に「赤い土器」という独特な文化を持つ集団が金の尾遺跡の周辺に栄えていた。この勢力に対抗するため、甲府盆地の南部、曾根丘陵が銚子塚古墳を造る場所として選ばれたのであろう。この周辺で見つかる土器は「赤い土器」とは異なり、東海系の「S字状口縁台付甕」と呼ばれるものが多い。しかし5世紀に入り、大和朝廷の権威が拡大していくと甲斐国の重要度は徐々に薄れ、重要な国司は派遣されなくなったのだろう。大きな前方後円墳は造られなくなる。甲斐銚子塚古墳以降に造られた古墳は小さい前方後円墳が多く、帆立貝式とも呼ばれる前方部が短い前方後円墳も造られている。そして主流は横穴式石室を伴う円墳に変わっていく。纏向型が前方後円墳の初期の形だとすると、帆立貝式は退化した形であろうか。甲斐国の位置は古代に置いては東の抑えとして栄えたことは大和朝廷から送られた鏡が銚子塚古墳から出土していることからわかる。この鏡は中国伝来のもので一部の限られた人物にのみその所有を認められたものである。

時代はくだり安土桃山時代。天下統一を果たした羽柴秀吉が徳川家康を関東に移し、その最前線として大きな城を造った。それが甲府城である。松本城もほぼ同じ時期に同じ目的で造られた。甲府城は秀吉から金箔瓦を屋根に葺くことを許された城でもあった。さらに江戸期には甲府は徳川領になり西国の抑えと

して君臨し、3代将軍徳川家光の弟忠長や、4代将軍の弟綱重が城主を勤めている。後の6代将軍家宣は甲府城主徳川綱重の嫡子である。一説には江戸が一朝有事の際は将軍の隠れ城として甲州街道とともに整備されたのが甲府城ともいわれる。しかし8代将軍吉宗の頃になると幕府の権威は絶対のものとなり、甲府城の重要性はなくなる。甲斐の国山梨は古代、近世それぞれ重要な位置にあったことは間違いない。日本のほぼ中心に位置し、山に囲まれた独特な地形を持つ山梨の特徴といえる。

## 協力員 手塚 理恵

甲斐の国から、古代国家設立の舞台となった大和へと、邪馬台国女王卑弥呼に引き寄せられるかのように古代史の熱風を体感できた、とても有意義な研修旅行でした。

甲府南インターを出発して7時間を過ぎ、高速道路を快走するバスの車窓には、遥かに遠い時代から現代を見守り、見続けてきた陵が出現し、時を超えて古代の人々との思いを共有しながら、研修旅行は幕を開けました。

榎原考古学研究所附属博物館は中庭が美しく、古代寺院の建築をイメージした建造物にも思えました。そして何よりも驚いたことは、我が故郷である讃岐の国、国分台(実家の近く!)出土資料のサヌカイトが、展示されていて、この資料を見学できた不思議なご縁に感謝し、大和有数の考古資料を収集し展示してある博物館には、協力員として学ぶことも多くあり、ボランティアガイドの方の説明に耳を傾けました。

箸墓古墳には、様々な思いがあり、古代史を代表するミステリーである邪馬台国と女王卑弥呼への、期待と想像を交錯しながら、巨大古墳の周りを散策し、女性としての強さ、そして、巫女として万物さえも操る神秘の力を卑弥呼に感じ、邪馬台国の熱風の中で時が流れていきました。

纏向遺跡の現場、そして桜井市立埋蔵文化財センターの見学では、遺物の整理作業や出土状況など、写真での説明が、とても分かりやすく温かみのある土器に親近感すら覚えました。

大神神社に研修旅行の安全祈願をし、甲斐の国へと帰路につき、無事に家に帰ることができました。

今回の研修旅行では、長い時を経ても静かに佇む古墳や遺跡に力をいただき、人と自然が織りなす大きな安らぎも深く感じました。そして、小学校の時に修学旅行で訪れた奈良を思い出し、当時と変わることなく楽しく学べました。

榎原館長をはじめ、保坂学芸課長、ご一緒できた協力員の方々、旅行会社社員の方に深く感謝いたします。ありがとうございました。

## 「日本の原点を訪ねて」 協力員 野口 正樹

私の人生の大きな節目はきりのよい年に巡り合わせている。

たとえば、生まれは皇紀2600年。皇紀とは、初代神武天皇が榎原宮で即位した紀元前660年1月1日を元年とする日本独特の年号で、昭和で言えば15年である。

定年退職が西暦2000年ちょうど。

どちらもこれ以上ないくらいきりのよい年である。

私はおおなる期待に胸ふくらませて県外研修へと旅立った。

桜井市纏向遺跡——

かねてから邪馬台国の有力候補地としてほぼ定説となっているが、反対派の息の根を止めるような発見があったことは記憶に新しい。すなわち、大型建物の柱列穴検出である。そのニュースを聞いてから俄然現地に立つてみたくなった。そして今日、その地に立った。

邪馬台国。卑弥呼も歩いたかもしれない宮殿跡周辺。

どんな言葉でなにを話し、どんな容姿だったか。このクニはどんな賑わいをみせたのだろうか。

現場に立つと想像はどんどんふくらんだ。

日本はここから始まったのか、と思うと感無量であった。

三輪山は当時と変わらず、じっと邪馬台国を見下ろしていた。

二日目の朝——

早朝5時半出発。かねて予定の陵墓古墳巡りである。

宿舎から(地図上では)遠からず近からず、初代神武天皇から第四代懿徳天皇いとくまでの御陵がある。

朝食前に散歩がてら参拝するにはほどよい距離だ、と思えた。  
 冒頭のきりの良い話は、神武天皇を言い出すための枕詞なのだ。  
 なにしる、卑弥呼よりも900年も前の天皇なのだから、こちらのほうが日本の原点かもしれない。  
 はやいとこ四人の天皇に謁見して帰って朝食だ。そんな軽い  
 気持ちでひとり早朝の街に出た。

ところが、である。地図を片手に薄明るいうちにホテルを出たのだが、いや歩くの何のって、日が高くなるにつれて猛烈に暑くはなるし日陰はないし、のどが乾いても自販機もない。おまけに道がよくわからん。道を尋ねようにも人影がない。初代神武天皇陵・第二代綏靖天皇陵ではやくも戦意喪失ぎみだったのだが、日本の原点を巡るという壮大な計画の手前簡単に挫折するわけにもいかないので、我が身に鞭打って第三代安寧天皇・第四代懿徳天皇陵に向かった。



ここからが真の苦難の始まりだった。歩けども歩けどもたどり着かずしかもよく道がわからない。

朝の散歩中の地元の人に聞いても判然としない。やっとのこと探し当て、三拝九拝して帰路に着こうとして愕然。どう急いでも朝食に間に合いそうにない。出発から2時間20分後やっとホテルに着いたときは出発5分前で朝食は当然パス。

これにもめげずこのあと炎天下、保坂課長の解説で纏向一帯の古墳群を巡り歩いたのだが、以前から訪れたかった地なので疲れも知らず興味深く歩いた。

保坂課長、興味深い解説を有難うございました。また、開化天皇陵を見せてくださるためにわざと道を間違えてくださるなど細やかな心遣いを有難うございました。

冒頭のきりのよい話の続きだが、人生の最後の節目もきりのよい年でありたいものだ。

目標、皇紀2700年、西暦2040年。(・・・ムリか)

願わくは きりのよき年 春死なむ 道は迷はで なるにまかせて 詠人不知

## いにしへの奈良へ

### 協力員 藤森 たか子



協力員になって初めて参加した宿泊研修が今回の「卑弥呼の遺跡、纏向遺跡と箸墓古墳」です。8月28日昼下がり榎原考古学研究所附属博物館に到着しました。エントランスを入るなり日本最大メスリ山古墳の大形円筒埴輪には度胆を抜かれます。多くの貴重な資料に大和朝廷の力を見せつけられます。そんな中で5世紀出土の轡や武具は山梨県立考古博物館の資料と類似していて大和政権と山梨の繋がりを強く感じました。

沢山の興味深い資料に見学時間がとても足りなくなってしまいました。急いでミュージアムショップへ駆け込みます。20畳ほどのスペースに欲しいものがいっぱいです。図録とペンダントを買い求めると既に閉館のチャイムが聞こえました。

翌日は日の出前に、宿から直ぐの今井町を3人で散歩しました。この町は重要伝統的建造物群保存地区で江戸時代の重厚な日本建築が並び、これからの古墳見学のウォーミングアップにピッタリでした。

いよいよ三輪山が車窓から見えてきました。原始信仰の三輪山は、山梨の三室山に通じるものがある山。神宿る三輪山を目の前に、はるか昔の人が偲ばれます。次回は是非狭井神社でお祓いを済ませ参拝証と白い棒を受け、巨石遺構や祭祀遺跡を見学してみたいと思いました。

そして三輪山のふもと桜井市纏向地区には沢山の古墳が造られています。大王古墳、箸墓古墳、山の辺の道を巡り纏向遺跡に着きました。遺跡はかなり大きな遺構で、祭祀など神聖な場所で今も発掘中です。後日ニュースでこの纏向遺跡から大量の桃の種が出土したと報道されましたが、これからも新しい発見がありそうで楽しみです。

暑さが心配された研修旅行も、保坂課長さんはじめ皆さんのお蔭で「知るは楽しい」時間になりました。次回を楽しみに待っています、ありがとうございました。

## 平成22年度 県外研修

part2

### 長野東部の縄文・旧石器の旅

平成23年3月6日(日)、日帰りの県外研修「長野東部の縄文・旧石器の旅」として長野県佐久地方を協力員34名、一般の方6名、事務局5名の45名で訪れました。

#### 研修コース

- ①南牧村美術民俗資料館(長野県南牧村) ②北相木村考古博物館(長野県北相木村)  
③浅間縄文ミュージアム(長野県御代田町)

\*協力員さんの研修の感想は協力会blog(2011.3.9掲載記事)でご覧いただけます。

最初に訪れたのは南牧村美術民俗資料館。国史跡矢出川遺跡の日本で初めて発見された旧石器時代の細石刃をはじめとする素晴らしい石器の数々。野辺山で発掘された石器の数に驚き、その石器が作られた氷河時代に思いを馳せながら見学をしました。

次に訪れたのは、平成22年度の第28回特別展「発掘された女性の系譜」で縄文女性の復顔など資料をお借りした北相木村考古博物館。国史跡栃原岩陰遺跡出土の縄文時代早期の土器や貝製装飾品、骨角器、シカなど多くの獣骨や貝などが展示されていました。復顔女性に再会できたことに喜び、獣骨の量に驚き、岩陰の発掘ジオラマに感心し、様々なことを感じることができました。

最後は平成23年度の特別展「縄文土器名宝展」に関連して浅間縄文ミュージアム。展示のスタイリッシュさや重要文化財川原田遺跡の縄文時代中期の土器、焼町土器に刺激を受けました。「この土器はいい!」との声があちらこちらから聞かれました。また時折、噴煙をあげる浅間山を眺め、浅間山に関わる展示も見学しました。

山梨の縄文文化、旧石器文化を知る上で大変意味のある1日研修となりました。



北相木村考古博物館での見学  
解説者：学芸員 藤森英二氏



浅間縄文ミュージアムでの見学  
解説者：学芸員 堤 隆氏

## ミュージアムショップ運営委員会の活動

平成20年度末に、立ち上がったミュージアムショップ運営委員会。平成22年度は商品在庫管理や商品のディスプレイを考えたり、こどもまつりや考古博物館の日など考古博物館主催のイベントに関連して特別販売をしたり、オリジナル商品を提案したりしていただきました。また、協力員さん向けの新商品の紹介などショップの情報を掲載した「ミュージアムショップ通信」の発行も始めました。ショップのリーダー的存在である運営委員さん、委員会創立2年目も試行錯誤しながら活動していただきました。



いろいろな意見が交わされる  
ミュージアムショップ運営委員会

### ミュージアムショップ運営委員 広瀬 はるみ

2年間のショップ運営委員長として活動できましたことは事務局の篠原さん、上野さん、保坂課長をはじめ運営委員さん、協力員さん方のご理解とご協力があったからこそです。ありがとうございます。

2年前の発足当初の目標が達成できたかという「全くできなかった」のが本音です。しかし、何もマニュアルのない中で皆で話し合い、工夫し新しいものを作りあげていくという「作り出す喜び」を味わうこと

ができたのは、ショップの運営委員だからこそできたものではないかと思えます。

日常では味わうことのできない悩みや楽しみもあり、「悩むこと」が「次にはどんな事があるだろうか」という“楽しみ”に変えていく前向きな気持ちでこの先も運営委員を続けていこうと思います。次の2年間で当初の目標へ少しでも近づけたら良いなあ…



### ミュージアムショップ運営委員 大山 智恵子

第1回発足のミュージアムショップ運営委員になり、少しでもショップの配置 イベントに合わせた販売及び品物等が増え、求めやすくするために色々と案を出し合いながらスタートしました。まだ歩み始めたばかりなので皆様方に多くの意見をお寄せ頂き、これからのショップのますますの発展を願っています。

### ミュージアムショップ運営委員 堀内 淳子

お粗末な話であるが、ミュージアムショップが協力会の運営であることを委員会に名を連ねてはじめて知った。広瀬委員長には大変申し訳なく赤面の至りである。が、運営委員として座を汚しながらもその立場でショップを見ると商品には貴重なもの、興味深いものと多種多様でお客様にぜひ見て手にとってもらいたいものがたくさんある。お客様には笑顔で接し、再度訪れてくれることを願ってショップ運営に係りたいと思う。

平成22年度ミュージアムショップ  
運営委員(敬称省略)

雨宮千代子、一瀬順司(副委員長)、  
今福政江、大久保長仁、大山智恵子、  
曾根瑠璃子、広瀬はるみ(委員長)、  
藤森たか子(副委員長)、堀内淳子、  
山崎義雄

## ミュージアムショップで販売中!

◆◆ 解説付き! 絵はがきセット(8枚入り) ◆◆  
300円



考古博物館オリジナルポストカード全8枚のセット。写真の土器などの解説文付。運営委員さんが8枚セットでの販売を提案。解説文作り・パッケージ作りも委員さんが行いました。

◆◆ 山梨県産檜 オリジナルキーホルダー ◆◆  
各250円



山梨県産のヒノキで作られた手作りのオリジナル商品。運営委員さん発案商品。山梨県・甲斐蓼子塚古墳(前方後円墳)・勾玉の形をしたキーホルダーです。

### こんなところにも…ありがとうございます



素敵なお花は周りをパッと華やかに、そしてその場の雰囲気を和やかにしてくれています。

考古博物館エントランスホールに飾られている四季折々の生け花は、お花の先生でもある協力員の原田みゆきさんが生けてくださいます。来館者の方に生け花を見て喜んでもらえたらという想いで、生けてくださっています。

受付カウンターを飾っている木で作られた置物。これは協力員山地千恵子さんの手作りです。毎月季節に関係したものなどの置物を作って飾ってくださっています。県産の檜を使った置物からは檜のいい香りが。どの置物もかわいさ抜群で見ると思わず笑顔になれます。



\*他の生け花や置物の写真は協力会blogでご覧いただけます。

編集後記：平成22年度の協力会の活動を紹介しました。原稿をお寄せいただきましたみなさまに感謝申し上げます。内容が盛りだくさんでお伝えしきれなかった部分もあります。協力員さんの活動のようすは協力会blog(<http://www.y-kyouryokukai.jp/>)のほうへ随時掲載しておりますので、そちらもご覧いただければ幸いです。(事務局)